

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 長野県 】

学校名【 長野西高等学校 】

1 実践テーマ	I・II・ III ・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	2学年（国際教養科）40名 3学年（スポーツレストラン選択者）19名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 英語（英語理解） ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	パラスポーツを題材に「障がい」や「共生社会」について学ぶ。 また、自分と他人の違い、日本と世界の関係等を理解し、グローバルな視野で物事を主体的に判断できる力を養う。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業内で実際にパラスポーツの体験を行った。 ・「あすチャレ！ジュニアアカデミー」により、パラアスリートの授業（オンライン）を実施し、パラスポーツを題材に「障がい」や「共生社会」等について学んだ。 ・「あすチャレ！ジュニアアカデミー」の「感想ノート」を用いて、授業から学んだことや感じたことを自分の中でまとめた



オンラインで講師の方とやり取りしながら学ぶ様子

<p>6 主な成果</p>	<p>感想の中で多くの生徒が触れていたのが、「『努力をいくらしても成果が出ない』と、思ってやめたくなくなってしまう時のアドバイス」である。1つ目は「顔晴る(がんばる)」こと(周りを笑顔にする頑張り)、2つ目は「感謝」する(応援してもらえる人になる)ことであると教えて頂いた。これらの2つを通して「他喜力(たきりよく)」が身につく、それがワクワクすること、そして努力を続けることに繋がるということであった。この内容に感銘を受け、前向きな気持ちを持った生徒が多かったようである。</p> <p>また、障がいを持つ人に対して偏見を持ったり、勝手な決めつけをしたりしてはいけないということを学んだという感想も多く見られた。国際教養科で取り組んでいる「異文化教育、異文化理解」という観点でも、大いに刺激を受けていた。</p>
<p>7 実践において工夫した点(事業の特色)</p>	
<p>8 主な課題等</p>	
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>今回学んだことを、他者理解や共生社会について考えるきっかけとし、積極的に行動する力や社会貢献する意識を高める。また、グローバルな視野で物事を主体的に判断できる力を養っていく。</p>

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 長野県 】

学校名【 長野県長野西高等学校 】

1 実践テーマ	I ・ II <input checked="" type="radio"/> III <input type="radio"/> IV <input checked="" type="radio"/> V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	1年生 1組～6組 計240名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p><input checked="" type="radio"/> ① 教科名 (体育)</p> <p><input checked="" type="radio"/> ② 行事名 (パラスポーツ体験会)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	パラリンピックスポーツを実際に経験することで、パラリンピックへの理解を深め、興味・関心を高めること。パラスポーツの魅力に触れ、共生社会の一員として生活していく力を身につける。
5 取組内容	<p>講師：加藤 正さん (他3名)</p> <p>実施種目：シッティングバレーボール 車いすバスケットボール</p> <p>最初に加藤さんによるそれぞれの種目の説明を受け、8人1グループで順番に種目を交代しながら体験を行った。</p> <div style="border: 2px solid black; width: 50%; margin: 10px auto; padding: 10px; text-align: center;"> <p>車いすバスケットボール</p> </div> <div style="border: 2px solid black; width: 80%; margin: 10px auto; padding: 10px; text-align: center;"> <p>シッティングバレーボール</p> </div>



<シッティングバレーボール>

最初はレクリエーションバレーボールで試合を行った。座ってみると移動できる範囲の少なさに戸惑っている様子であった。最初は自分がボールに触れることをためらい、なかなかラリーが続かなかった。慣れてきて、講師の先生にも一緒にやってもらおうと、ラリーが続くようになり、点数を獲ることに喜びを感じ、意欲的に取り組んでいた。バレーボールが苦手な子も楽しみながらできている様子であった。



<車いすバスケットボール>

車いすに乗り、5対5ですぐに試合を行った。最初は競技用車いすの操作性の良さに驚いていた。次第に慣れ、パスやドリブルを行い、「全員がシュートを打ってみよう」という加藤さんからの言葉もあり、積極的に取り組んでいた。しかし、リングまで届かせることは難しく、苦戦している様子であった。何回もチャレンジをしてようやくシュートが入った時は全員が喜んでいて、車いすを操作しながらドリブルやパスをすることが難しく、選手のすごさを実感している様子であった。普段ではできない体験に、生徒たちは夢中になって取り組んでいた。人数の関係で十分な時間がとれなかったことが残念である。



6 主な成果

現2.3年生は昨年度同様の内容を実施させていただき好評であった。1年生は初めて経験する生徒が多く、「楽しい」という言葉が多くあがってきた。また、普段は運動が苦手な生徒や怪我をして松葉杖をついている生徒も積極的に参加する姿があった。みんながやることがない、ある程度運動が制限されるといった環境の中だからこそ全員が主体的に参加できたのだと感じる。

今回の事業を通して、

- ①パラリンピックスポーツへの興味関心の向上
- ②パラリンピアンへの技術や体力のすごさへの理解
- ③周りに配慮し、誰もが主体的に取り組むという共生社会の一員としての資質の向上

が成果としてあげられる。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)

本校3学年では体育理論とあわせてシットイングバレーボールやボッチャなどのパラスポーツを今年度も実施した。この事業を実施することで1～3年生の全ての生徒がパラスポーツを体験することができた。昨年度から実施していることもあり、パラスポーツへの理解と知識はある程度高まっている。また、東京パラリンピックが開催されたことも大きいと感じる。その中で、本校だけでは実施することができない「車いすバスケットボール」を経験させていただいたことが生徒にとっても教員にとっても充実した時間となった。パラスポーツの大きな支えとなっている道具についても理解を深めて欲しいという思いもあり、今回の事業を計画した。

<p>8 主な課題等</p>	<p>講座の人数と車いすの数の関係で、車いすバスケットボールを体験する時間が短くなってしまった。ある程度の時間を確保するのであれば小人数での開催が好ましい。来年度以降は新1年生へ同様の事業を継続することと、2,3年生に対しては経験したことのないパラスポーツやパラリンピアンとの講話を実施したいと考えている。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>来年度以降も継続して、体験会を実施したい。 学年ごと種目を変えるなど、段階的にパラスポーツへの理解や取り組みを深めていきたい。また、普段の授業（体育、体育理論）の中でも実施していくと同時に体育が苦手な子やコミュニケーションが苦手な子へ対してのアプローチとして活用していきたい。学校設定科目の「スポーツレストラン」内でも地域の方々や障がい者の方々とも一緒にやる時間をもてるようにしていく。東京オリンピック・パラリンピックが終わり、自国で大きなイベントがあったことを生徒たちに継続して伝え、パラスポーツの理解をさらに深めていきたい。また、共生社会の一員としての資質を育てていきたい。</p>